



# Go-Amiko

**Informilo de  
Japana Esperantista Go-Asocio  
N-ro 176, Aprilo 2026**



## 八ヶ岳囲碁合宿への参加をお待ちしています

2026年5月16日(土) — 17日(日)  
八ヶ岳エスペラント館  
Maja kunsido: 2026.5.16-17  
Jacugatake-Esperanto-Domo



山梨県北杜市にある日本エスペラント協会の研修施設「八ヶ岳エスペラント館」は、この季節、新緑でも美しくなります。新緑と静謐の中で、囲碁を楽しみませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

場所： 八ヶ岳エスペラント館（電話 0551-32-7335）

（中央線小淵沢で小海線に乗り換え、一つ目の駅甲斐小泉駅下車徒歩 10 分）

会費： 3000円(食費は別。近所のレストランから釜めしを取ります)

申し込み： 堀泰雄まで。メール：[hori-zonto@r.water.sannet.ne.jp](mailto:hori-zonto@r.water.sannet.ne.jp)

電話・ファックス:027-253-2524 手紙:371-0825 前橋市大利根町 2-13-3

午後 2 時ごろから対局を始めます。翌日は、午前中で終了します。

Jacugatake-Esperanto-Domo. Kontakto s-ron HORI

Retel: [hori-zonto@r.water.sannet.ne.jp](mailto:hori-zonto@r.water.sannet.ne.jp) Telephone: 027-253-2524

## JEGA 第45回新春囲碁大会の報告

日時： 2026 年1月12日(成人の日) 10:30~16:00

場所： 大崎囲碁クラブ (電話 03-3491-1349)

### La 44a Novjara Go-konkurso de JEGA

Ni okazigis la 45an Go-konkurson de JEGA jene :

Dato : la 12an de januaro 2026 ekde la 10 :30 ĝis la 16a

Loko : Go-klubo de Oosaki (tel : 03-3491-1349)

## 日本エスぺラント囲碁協会の新春囲碁大会が開催されました

報告 高野富輝夫

開催日は、2026 年 1 月 12 日(月)、天候は晴天、気温摂氏 1 0 度。

会場は、東京都品川区、JR 山手線・大崎駅西口前の碁会所(桜井氏所有)。

対戦は、開始 10 : 30、昼食休憩 30 分、終了 16 : 00 まで約 5 時間。

方式は、総当たり・ハンディ付。勝ち数で順位を決める。

参加者は、桜井信夫(東京都)、石野良夫(東京都)、堀泰雄(群馬県)、  
高野富輝夫(埼玉県)、木下恒(静岡県)、森均(滋賀県)

森氏は大雪のため新幹線が遅れたので最後の到着。通常は最も早い到着です。以上 6 名のプレイヤーによって、熱い対戦が繰り広げられました。

対戦は黙々と進行しました。本当に！楽しみはおやつです。各自が持ち寄った地元の銘菓とお茶を頂きました。

各自 2 局終了後、昼食タイム。

【今半】製の美しい新春弁当でした。



午後も熱い対局が黙々と進行しました。驚くべきことに、持碁（＝引き分け）が2局も出現しました！（°Д°）実力ある対局者たちにとっては、大変悔しいものでなかったかと、私は推測致しました。

その影響で、私（高野）は3勝2敗でしたが、第2位に浮上しました。第1位は、安定した勝数で木下氏になりました。最後は記念写真を撮って終了となり、次回の再会を約して解散になりました。

【皆さま、有意義な1日を共有できました。大変有難うございました ☆！！】



De maldekstre: Mori, Hori (la 3-a loko), Takano (la 2-a loko), Kinošita (ĉampiono), Išino kaj Sakurai.

# Kial Go estas Nepopulara?

kapao (石川一也)

Leginte la informilon “Go-Amiko n-ro 175”, mi skribos ĉi tie mian opinion.

ぼくは昔、NHK の囲碁番組をたまたま観て、まず感じたのはひどく難しい、ということでした。しかし、何事も最初は難しいと感じるの当たり前（あたり前田のクラッカー）なので、せっかく NHK で放送しているのだから、それなりの視聴者が居るはず、これを観て楽しむことができるようになりたい、と思いました。対局を観る楽しさ、を知りたいと思ったのです。

ぼくの父が若いころから囲碁に夢中になっていたのを知っていて碁盤などの道具も揃っていたので、父に対局を申し込みました。最初は19路盤で9目置き、2回連続で僕が勝ったら1目減らしていく、ということで始めました。父は、大喜びで毎日対局しました。しかし、5目置きでストップしてしまいました。そこからはどうしても2連続で勝てないのです。ぼくは嫌になって、そこで父との対局は終わってしまいました。父の死後、この囲碁対局は「親孝行」でもあったのだ、と気づきました。後の祭りでした。

つい最近、と言っても20年ほど前に、エスペランチストの長野県松本の二木徹さんが囲碁ができる、と偶然知り、やろうということになりました。AI 囲碁というソフトをお互いが購入してそれで毎週4～5回対局してきました。その間に、大島順子さん（Oazo）も囲碁を覚えたいということで、同ソフトを使って、Oazo には9目置き碁で、ぼくが父とやったのと同じ条件で始めました。現在は、ぼくと同じ程度の力になりました。二木さんも大島さんもぼくは勝ったり負けたりで、ここ10年以上続けています。

この AI 囲碁は、対局を保存できることなどとても便利なソフトです。しかし、最近これがなぜか使えなくなってしまい、同じように便利なソフトを探しています。ご存じでしたら教えてください。

そこで、本題に入りますが、囲碁人口が増えないのは何故か、という問題です。これは、エスペランチストが何故増えないか、という問題と似ていると思います。ぼくなり意見としては、「囲碁を教えている人は、どちらかという囲碁の力のある、囲碁の力が伸びそうな人だけを意識している」ということです。これは、当然と言えば当然です。自分ができるのですから、その力を基準として教えているのです。

昔、笹森さんという囲碁のできる方と星目でもちろんこてんこてんに負けたことがあります。エスペラント館でのことです。その対局後、笹森さんがこの場合はこう打つとよかったのですよ、と丁寧に教えてくださいました。しかし、ぼくには、その説明がさっぱり理解できなかったのです。エスペラントでも同じようなことが行われています。

たとえば「この動詞は他動詞ですから、次には、対格がきますね」と説明しても、「他動詞とは何か」「対格とは何か」がしっかりと分かっていない相手にこの言い方で理解されるはずはありません。事前に「相手が他動詞（対格）について分るまで学習しているのか」ということを確かめずに、当然知っているはずと、どしどし説明しています。

囲碁の場合も囲碁の強い仲間だけが集まることを想定して「囲碁の会」を運営しているような感じがしてなりません。確かに、ハンデという将棋では飛車角落ち程度しかできないのに、囲碁では細かくハンデを設定できる長所があります。しかし、このだけでも対等に対局できるということを一般の人は知りません。知らされていないからです。

ぼくは、内心おもっていることですが、エスペラントも「1人が一人を教える」（相手の能力にぴったり合わせた指導ができるので）ということをするれば、どうかなあ？と思ひもします。

「わたしには教えることなんてできないよ」という問題は、ここで「できる人の登場」です、「教え方を教えて」いただきます。自分が十分に力を持っている人ほど、まったく力のない人を教えることはできないが、「教える人を教える」のはできるはずです。

わたしが JEGA にいまだに入会していないのは、「わたしのようには囲碁が弱い者は、対象となっていない」と感じているからです。

今回の Informilo で堀さんが「わたしの考え」で述べられている「囲碁は、庶民には遠い存在だった。囲碁を普及するためには、まず、簡単に学べるようにしなければならない。そのために、9路盤、13路盤という様に、盤の小さいものから教える仕組みが必要なのではないか」ということは、わたしの思いに近いものです。ぼくは、盤の小さいものから、ということも含め、さらに「入門者や初心者能力に沿った指導を一人一人に対してその時点での力に応じて行う」という構えを持つことが必要ではないか、と思うのです。

この意見が受け入れられた場合、「では、それは具体的にどのように指導すべきか」を研究すべきでしょう。

## Resume:

La demando estas, kial la nombro de Go-ludantoj ne kreskas? Mi pensas, ke tio similas al la demando pri kial la nombro de esperantistoj ne kreskas. Mia opinio estas, ke "homoj, kiuj instruas Go-n, emas fokusiĝi nur al tiuj, kiuj jam estas lertaj pri Go aŭ kiuj montras potencialon por plibonigo." Tio estas komprenebla, kompreneble. Ĉar ili mem estas lertaj, ili instruas surbaze de tiu nivelo de kapablo.

Iam, mi estis tute venkita de Go-ludanto s-ro Sasamori en ludo de 9-ŝtona avantaĝo. Post la ludo, li afable klarigis al mi, kion mi devus esti

ludinta en kelkaj situacioj. Tamen, mi tute ne povis kompreni lian klarigon. La sama afero okazas kun Esperanto. Ekzemple eĉ se vi klarigas, "Ĉar tiu ĉi verbo estas transitiva, la sekva vorto devus esti en la akuzativo", estas neeble por tiu, kiu ne plene komprenas, kio estas transitiva verbo aŭ akuzativo, kompreni ĝin. Sen antaŭe kontroli, ĉu la alia persono jam lernis transitivajn verbojn ĝis la punkto de kompreno, li daŭrigas klarigi la alian, simple supozante ke la alia persono nature scias.

Koncerne Go-n, mi ne povas ne senti, ke "Go-kluboj" estas funkciigataj sub la supozo, ke nur fortaj Go-ludantoj kolektiĝas. Go havas la avantaĝon permesi handikapojn. Tamen, la ĝenerala publiko ne scias, ke iu ajn povas ludi egale, ĉar ili ne estis informitaj.

Mi sekrete pensas, ke se Esperanto adoptus sistemon de "unu persono instruas unu personon" (tiel ke instruado povas esti perfekte adaptita al la kapablo de la alia persono), ĉu tio ne estus bonega?

La problemo de "mi ne povas instrui" estas traktita ĉi tie per "la persono kiu povas", kiu "instruas kiel instrui". Tiuj, kiuj estas tre lertaj mem, ne povas instrui tiujn, kiuj estas tute nekapablaj, sed ili povas "instrui kiel instrui".



En la lasta eldono de Go-amiko, s-ro Hori deklaras en sia "Miaj Pensoj", ke "Go estis io malproksima de ordinaraj homoj. Por popularigi Go-n, ĝi unue devas esti facile lernebla. Por tiu celo, necesas sistemo por instrui komencanton per pli malgrandaj tabuloj, kiel ekzemple 9x9 aŭ 13x13 tabuloj," kio estas proksima al miaj propraj pensoj. Mi kredas, ke, krom komenci per pli malgrandaj tabuloj, necesas ankaŭ adopti sintenon de "provizado de instruado adaptita al la kapablo

de ĉiu komencanto kaj novulo, laŭ ilia kapablonivelo tiutempe."

## 杜もりさん、ご逝去 Forpasis s-ino MORI Amori



亡くなられた杜もりさんについて、私の知っていることをお知らせします。

1995年東京で開かれた日本エスペラント大会を見学に見えたのが、最初の出会いでした。碁の分科会に来られて、私の説明を受け、エスペラントよりも、もともと打っていた碁のほうに関心を示して、1996年日本棋院で行われた JEGA 新年碁会に始めて参加され、それ以後 JEGA の常連としてほぼ毎年私たちの例会に参加されるようになりました。翌年からはいつも梶さんと一緒でした。

私の記憶では、杜さんはお芝居の俳優、梶さんが台本を受け持っていた、と聞いていたと思います。それ以外のことについては、プライベートに関わると思い、あえて何も訊ねませんでした。で、ご家族のこととか何も知りません。 桜井信夫

写真は、2015年5月の八ヶ岳合宿で。左側手前が杜さん、その向こうが梶さん（梶さんも3年ほど前に亡くなった）。